

自力登校で逞しい鏡中生に

八代中体連総体もいよいよ終盤を迎え、明日の陸上競技を残すのみとなりました。本校の生徒たちも、各会場で大熱戦を繰り広げ、その姿は多くの人に感動を与えています。鏡中の代表として総体へ参加している生徒たちに、改めて敬意を表したいと思います。

さて、熊本地方は梅雨真っ只中です。そんな中、雨の日も、生徒たちは元気に登校してきます。教科書、体操服、水着、部活道具など、沢山の荷物がぬれないようビニール袋に包み、雨がっぱをきて登校してきます。学校へ着いてからも、狭い駐輪場で自分の自転車にぬれた雨がっぱを広げて干して、教室へ向かいます。このように、晴れた日に比べると雨の日には多くの手間がかかります。大変です。しかし遅しく立派な姿です。



登下校について世界各国の様子を調べてみると、先進国において、子供だけで自力通学ができる国は、日本をはじめわずかな国だけのようです。世界の多くの国では、残念ながら治安が悪く、子供たちだけで登下校させることはあり得ないそうです。子供の誘拐などが多い国では、保護者による学校への送り迎えを法律で義務化している国もあります。

しかし我が国では、多くの人々の見守りや保護者の皆さんの理解により、子供の自力通学が行われ、子供たちの成長を促すことにつながっています。本当にありがたいことです。

このような環境にある子供たちには、自力通学を、是非自分の成長につなげる機会にしてほしいものです。しかし、残念ながら、雨の日の本校の自転車小屋は、保護者の送り迎えが多いため、自転車が少なくガラガラです。



鏡地区は、皆さんご承知の通り、全国でも有数の農業地域です。農業に携わる多くの方が、自然と上手く付き合いながら、農作物を育てておられます。天候の変化に敏感に気づき、農作物を守りながらお仕事をなさっています。

本校の生徒は、そのような地域の大人の後ろ姿を見て育っています。生徒たちにも、そのような地域の大人を見習い、自力通学を通して、天気の状態によって、自分の生活スタイルを変えるなどの自然との付き合い方を学ぶ機会を大切にしてほしいと思います。

忘れ物についても同様です。忘れ物をしたからといって安易に親を頼らない。必要な道具がなく、学校での学習に困ることも、また経験です。次から必ず忘れないで持ってくるはずです。

「学習に必要なものは自分で用意して学校へ持って行く」「安易に家族を頼らず、雨でも自分で登下校する」このようなごく当たり前のことができる人に鏡中生を育てましょう。

雨の日も風の日も、自分の力で学校へ通った経験は、生徒の大きな自信となり、卒業後、遅しく高校生活等を送る基礎となります。

私も、そんな生徒たちを毎朝、一人でも多く校門で迎え入れたいと思います。各ご家庭でのお子さんへの励ましをよろしくお願いいたします。

お願い

お子さんを送ってこられる際に、西門付近で子どもを下車させないでください。自力登校している生徒や、他の車両と交錯し、大変危険です。別の安全なところで下車させてください。

※けがをしているお子さんの送迎車は、正門から校内駐車場まで乗り入れていただいて構いません。